



環境・会報

第18号

所沢市環境推進員連絡協議会
発行責任者 会長 斉藤禮次郎

所沢市ホームページ <http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

持続的発展可能なまちをめざして

会長 斉藤 禮次郎

皆様には日頃より所沢市の環境の為にご尽力を頂き厚く御礼申し上げます。

お蔭様で環境推進員の活動も、より活発になり感謝に堪えません。

さて、今回の会報には「ごみ減量・資源化を進める市民会議」の各部会の代表の方には貴重な活動報告を頂き誠にありがとうございました。

「所沢市ごみ減量・資源化を進める市民会議」は、所沢市の家庭や事業所から排出されるごみの減量・資源化を進めるため、平成21年7月に市長より44名が委嘱を受け、内半数の22名が環境推進員でスタートしました。

ごみの分野は多岐にわたることから、「生ごみ」「雑がみ、古布、剪定枝」「プラスチック」「啓発・

普及」の4つの各分野に分かれて、それぞれごみ減量・資源化に関する調査・研究や、実践活動、啓発・周知等の活動を2年間行いました。その2年間の各部会の活動は、それぞれごみ減量及び資源化の現状や問題点、更には提案などがきめ細かく報告されています。

環境推進員の皆様には是非参考にして頂き、ごみの減量・資源化について一人でも多くの市民に周知し実行し、第5次所沢市総合計画における環境・自然の目標である「豊かな自然と共生する持続発展可能なまち」を形成する一助となることを願っています。



「ごみ減量・資源化を進める市民会議」の果たした役割

副会長 小林 輝暉

ごみ減量・資源化を進める市民会議が2年間の活動報告をまとめ公開（所沢ホームページ・PDF）されました。

環境クリーン部資源循環推進課が窓口となり市民と協働作業を主題に一般公募し、11人の応募者と所沢市環境推進員22名、生ごみリサイクル推進員6名、所沢市消費者団体連絡会2名、所沢市連合婦人会2名、青年会議所1名の44名で構成され、4部会（生ごみ、雑紙・古布・剪定枝、プラスチック、啓発・普及）で環境への負荷低減へ3R（Reduce Reuse Recycle）を念頭に活動されました。

各部会の2年間にわたる活発な活動は私たち外部にいるものにも、いたるところで聞くことができま

した。市民会議の終了に伴い市長から感謝状が渡されました。漏れ何うところによると2年間の活動のすべてが無償ボランティア活動とのことでした。この間の活動内容を折に触れ聞かされたり、参加したりしていただきましたので大変なエネルギーが使われたと推察いたします。

それにしても同・市民会議に参加された半数以上が環境推進員ですので大きな活動ではないかと思われる。参加された皆様に厚く感謝いたします。

環境推進員連絡協議会はこれらの意見を十分に尊重し何が問題であるのか、課題把握し今後の活動に生かす必要があると思います。



雑がみ・古布・剪定枝減量資源化部会

吾妻地区 鈴木 由紀子

雑がみ・古布・剪定枝減量資源化部会長を務めましたので報告をします。

昨今の気候変動に対しては、心配ながらの生活でしたので、ゴミの減量化に対して地域において集団資源回収や生ごみの出し方の工夫をしていました。市としての取り組みに対しても燃えるものがありました。

部会の人達は初めての人ばかりで、2年間コミュニケーションをどうとって行けば良いか、体力的に続くかな、などの不安はありましたが、部員の一人一人の「資源化」に対する思いが伝わってきて心強く思いました。

市内各地でのそれぞれ立場が異なる人達ですから、地域でのゴミの取扱いや、工夫の部分、悩みは多くありました。

市民フェスティバルで啓発をしようと決め、月1回の集まりを増やし、残業をし、材料まで集め作り、1000個の雑がみ雑誌入れの袋とファイバーリサイクルの「もったいない」のピーアールを広げるために、500枚の衣類を集め、サイズ・性別・一声をつけ心込めて用意しました。

当日はあっという間に市民の方々に持って行ってもらい、行動することの大切さを学びました。

机上の話し合いだけでなく、行動することにより部会員のまとまりを得たと考えます。

雑がみは、私達の生活の中のいたる所にあります。

私は環境推進員・町内会長と行政協力員を9年務めていますので、回覧の数は膨大です。回覧したあと雑がみとして再利用できます。

吾妻地区では90%が集団資源回収を実施しています。

当部会では、雑がみが燃えるごみの回収の2/3をしめているので、これを再利用にと長い時間をかけ検討しました。

これからも、この部会に参加した方々は地域にもどり、ごみの減量・資源化に対して行動をしてくれると信じています。

これからも熱い思いを持って自分たちの住む所沢市を良くしていくよう頑張っていきたいと思います。



プラスチック類減量・資源化部会

富岡地区 品川 昭

プラ部会（10名）は平成21年7月15日に市民会議が設置発足して以来、23回にわたる会議を開催し、報告書にまとめ、平成23年7月14日に市長へその報告を行いました。

資源の枯渇、使い捨て文化をあらためる、地球温暖化ガスCO2の削減、清掃費の削減などというごみ減量効果について、市民会議のメンバーによる会議は始まりました。

プラ部会としては減量の目的と目標を定め、検討を開始しました。元来プラスチックは処理困難物とされています。焼却すると塩ビと化合してダイオキシン類など有害な排ガスが発生します。CO2は明らかに増大します。埋め立てした場合にもプラスチック製品に含有する柔軟剤などの添加物が浸出し、地下水を汚染するおそれがあります。清掃工場においては有害物質を排出させないために、それを除去する高価な施設を配備しなければならず、維持費も相当なものになります。だから廃プラ処理の最良の方法は減量・資源化することを確認しました。

新日鉄君津工場で廃プラの炭素を活用し、コークス炉の中で純正なコークス製品をつくりだしています。その事業化は進んでおり、地方自治体からのごみも受け入れていきます。これからの廃プラ処理の有力な方策として提言しました。つぎにレジ袋の削減に取組みました。

市民は買物の際にマイバッグを持つという習慣をつけると同時に、店側の方も、有料にしたり、値引きしたりする方法や「袋はご入用ですか」と聞く体制をとることを市と市民と商店が協定を結ぼうと提言しました。

その他、様々な提言をしましたので、最大限取り組んで頂きたいと思います。



ごみ減量・資源化啓発・普及部会

山口地区 毛利 吉成

当部会は、8名の委員により、市総合計画における「豊かな自然と共生する持続的発展可能なまち」の形成を目標にした、ごみ減量・資源化を進める課題を、事務局の資源循環推進課の職員を交えて2年間にわたり22回の会議を開催しました。

大量生産、大量消費の物質的に豊かな現状の社会システムは、大量の廃棄物を発生させ、処理工ネルギーの増加、温室効果ガス排出量の増加、最終処分場の逼迫など様々な問題を引き起こしています。所沢市における「ごみ」と「資源物」は、平成14年度をピークに年々減少していますが、22年度の市民一人当たりのごみ排出量は、年間322kgにもなっています。便利さを享受していくには、市民の智慧と工夫でまだまだ減らしていくことが急務です。ごみ減量・資源化を進めていくには、発生抑制Reduce・再使用Reuse・再利用Recycle、つまり”3Rの普及・啓発”を図り1人ひとりの実践、モラルの構築につなげていかなければなりません。

所沢市では、3Rをライフスタイルに定着させ実践に向けて色々な手段や方法を講じてPR活動を展開していますが、当部会では、そのうち毎年度全世帯に戸別配布しているポスター形式による「家庭ごみの分け方・出し方」は、全市民に周知する有効な広報媒体のひとつであると位置づけ、これのさらなる有効活用を図るための調査研究することとしました。利用実態や活用実態を環境推進員の協力をいただきアンケート調査を行い、これを踏まえ、体裁、内容、配付方法、等の検討をしました。“家庭から排出するごみは、資源”をキーワードに「とことん減量・資源化のすすめ」と題した冊子形式で編集し、ごみ問題についての身近な教科書としても利用ただけ経年的に活用できる「保存版」としての体裁を整えたものとなりました。



ごみを捨てる奴と拾う人・始末記

柳瀬地区 森田 慶生

関越所沢インター出口付近の側道・側溝の慢性的不法投棄ゴミについては前号で報告しました。

ただ何度清掃しても、イタチごっこで腹にすえかね、今回は3月29日市役所に沖本建設部長を訪ね、環境推進員協議会と区長会の連名で改善要望書を手渡しました。会見の様子は「新民報」が4月2日付で大きく記事に取り扱ってくれました。

その折の部長の現場を見て検討しますとの言葉を楽しみにしていたら、道路維持課から近く作業に入りますとの連絡、ああこれで10年間の努力が実ったかと喜び合ったものでした。

7月からは川端の除草・どぶ川の清掃・木の伐採と続き8月末には道の脇に2mのネットと実に手早く作業を進めてくれました。

ゴミの山からのあまりの変身に、記念写真を撮り、できればどぶ川に石の蓋と頼みました。

ゴミ散乱の柳瀬名所が、こんなにきれいになったのは、2月13日の重点清掃(57人出席)に作業服に長靴で駆けつけてくれた生活環境課・資源循環推進課職員のお蔭かと思えます。

明るい始末記になったことを市当局に感謝します。



清掃前の側溝



2mのネットも張られ、きれいになった側溝

だれも安全を保障できない放射能廃棄物

環境コラム

丸山 千尋



ギリシャ神話には示唆にとんだ物語が多い。人間に火の技術を与えたプロメテウスは全能の神ゼウスの怒りをかい、罰としてコーカサス山に鎖でつなわれ3万年間、毎日蘇る肝臓をハゲ鷹に喰われ苦しみ続けました。プロメテウスは前もって知り、備える智をもつ神で、ヘラクレスに助けられることも知っていたので長い苦しみに耐えられたと言われます。それから人間は火と技術の力でマッチから科・化学の発展で核兵器までつくりあげ、このことによつてどれほど悩み苦しまなければならなくなりましたか。

人間は鉄砲、戦車、飛行機、ミサイルなどを開発し殺し合いを続け、その最後の仕上げが核兵器。しかも、その原子爆弾を使用してしまいました。そのおかげで確かに大戦争は終結し欧米人、日本人は快適で豊かな生活を営んでいます。しかし米ソの冷戦時につくった核兵器を抱え込んでプロメテウスが苦しんだように、思い悩むことになったのです。人間の歴史が兵器からの技術・平和利用にあるとしたら原爆から原子力発電への転用は最大のイベントでしょう。アメリカの核の下にいる日本はアイゼンハワー大統領の原子力平和利用演説に酔い、1966年7月25日東海原発運転開始、現在54基の原発を所有しています。

今回の東日本大地震、大津波の災害で福島原発は故障、運転停止、近くの住民は放射能漏れのため避難生活を強いられ、今なお先行き不透明、予断を許さない状況になっています。ドキュメント映画「10万年後の安全」は、フィンランドで実際に放射能性廃棄物の埋蔵の現場に立ち会い制作されたもので、「ここは21世紀に処分された放射能廃棄物の埋蔵所です。危険ですから決して入らないでください」というメッセージがありますが、これを読んだ未来人はどう対処するでしょうか。

大量生産・大量消費を支えたのは、もちろん原発の力ですが今こそ欲望に弱い人間を未来の地球・人



類のことを充分考慮できる智慧ある人間にかえてくれるヘラクレスの登場を願うとともに、自分ひとりでも昔の質素な生活に戻りたいと思います。

歩きたばこ等の防止啓発キャンペーン

所沢地区 小泉 英治

所沢市では例年、喫煙マナー及び環境美化意識の向上、安全で清潔かつ快適な生活環境を確保することを目的とした「所沢市歩きたばこ等の防止に関する条例」にもとづき、危険・迷惑な「歩きたばこ」をなくすために環境推進員連絡協議会と連携して「歩きたばこ防止啓発キャンペーン」を実施しております。

7月1日及び7月6日の2日間にそれぞれの地区で、所沢市内8駅14出口にて実施され、参加者は環境推進員合計240名で昨年7月と比較しほぼ同数の参加者数でした。キャンペーンの効果もあり、歩きたばこ等行っている喫煙者や、ポイ捨ても少なくなってきましたが、完全に無くなっていません。また、埼玉県西部地域まちづくり協議会構成市の4市（飯能市・狭山市・入間市・所沢市）が共同で実施しておりますが、市の仕事公開評価で本事業の方向性（啓発のやり方予算等）が新たに示される見込みです。



所沢市環境推進員

活動パネル展

環境推進員の活動を、楽しい写真パネルで展示します。
環境先進都市を目指して、市民みんなで頑張ろう！

12月14日(木)～20日(例)
午前9時～午後4時

会場：所沢市役所1階市民ホール

所沢航空記念公園外周道路清掃（清掃中）

環境美化の日

歩きタバコ防止キャンペーン

所沢市環境推進員連絡協議会
事務局：所沢市役所生活環境課
電話042966-6670

編集後記

レジ袋削減の取組。“店側の理解や行政との協力を得るなど、発生抑制の方策をみんなで”と富岡地区の品川氏の言、ご一読を！

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

環境推進員連絡協議会のページにアクセスしてください。

編集委員 毛利吉成・丸山千尋・小泉英治・小林輝憲